

## 2年目ほだ木の散水および打木による発生操作

林業研究部 きのことグループ

### 1. 研究の背景

原木乾シイタケの生産現場において、2年目ほだ木からの発生量が減少しており、特に低温性品種で顕著となっている。2年目の単収を向上させる技術として、散水、また散水後の打木（樹脂製のハンマーでほだ木を叩く操作）による発生操作を検討した。

### 2. 研究成果の内容・普及のポイント

- ① 2年目のほだ木に散水及び打木を行うことで発生量が増加した。（表1）
- ② 12月、2月に散水・打木を行うことで、冬期発生量が増加した。（図1）
- ③ 打木により集中発生することがあるので、1か所を強く打木せず、樹皮面を満遍なく打木する。

表1. 3年間の乾シイタケ発生量(低温性品種)

2年目の処理	発生量(乾kg/m <sup>3</sup> )			
	1年目*	2年目	3年目*	合計
対照区	3.3	3.1	2.2	8.7
12月散水 2月散水+打木	3.2	5.8	1.1	10.1
12月散水+打木 2月散水	3.0	6.1	1.6	10.7
12月散水+打木 2月散水+打木	3.1	7.1	0.9	11.1

\* 1年目と3年目は無処理

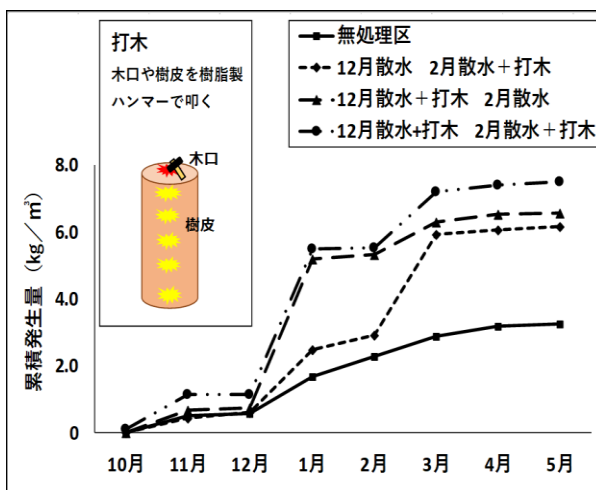


図1. 処理毎の発生状況（低温性品種）



図2. 散水後打木を行った試験区の発生状況

### 3. 期待される効果

- ・ 2年目ほだ木からの発生量が増加し、単収の増加が図られる

### 4. 担当機関連絡先

林業研究部 きのことグループ

TEL：0974-22-4236

住所：豊後大野市三重町赤嶺2369